

## ▽取組事例名

まちなか子育て・市民交流スペース「てくるん」

## ▽取組期間

平成23年度～  
(継続中)

## ▽取組概要

商店街の空き店舗活用や来街者数の改善、また、待機児童解消策を複合的に実施するため、保育・託児機能、市民交流機能を備えたスペース「てくるん」を商店街に設置し、市民の利便性の向上を図った。

## ▽取組みの背景

近年の経済情勢等に伴い、全国的な共通課題である商店街の空き店舗率の上昇、来街者の減少に対する取組及び勤務地が集中する中心市街地における保育ニーズに対する取組が求められるなか、空き店舗を活用し、保育事業に加えて休憩スペース等の買い物を快適に行うための機能を複合的に有する事業を開始した。

## ▽取組みの狙い・具体的内容

## (取組みの狙い)

全国的な共通課題であり、本市の重要課題でもある商店街の空き店舗率や来街者数の改善及び待機児童数の改善を図り、中央商店街が市民にとって快適に過ごせる場所となることを目指す。

## (具体的内容)

- ・家庭的保育事業
- ・商店街を訪れる子育て世代のための託児事業（日・祝日のみ）
- ・誰もが気軽に利用できる無料休憩スペースや多目的トイレ、授乳スペースの設置
- ・子育て相談や高齢者のためのサロン等イベントの実施
- ・ベビーカー、車椅子、買物用カートの無料貸出し
- ・女性用のフィッティング・パウダールームの設置

## ▽取組みを進めていくなかでの課題・問題点（苦労した点）

開始当初は市民の認知度が低く、利用者数の増加に向けた方策を検討する必要があった。

## ☆工夫した点

家庭的保育事業及び託児事業を運営委託している事業者、無料休憩スペース等の管理運営を委託している事業者及び市の担当者の三者が定期的に協議する場を設け、課題や問題等を共有することで市民の利便性向上に努めている。

来街者が増える中央商店街等で実施しているイベント（土曜夜市等）時に開館時間を延長することで、休憩スペースの利用が増加し、認知度アップにつながった。

## ▽取り組みの効果

### ①中央商店街の歩行者通行量

（休日）平成24年度：142,689人／日 平成25年度：136,675人／日

（平日）平成24年度：96,496人／日 平成25年度：93,206人／日

### ②中央商店街の空き店舗率（各年度4月1日現在）

平成23年度：11.3%

平成24年度：10.9%

平成25年度：12.0%

### ③待機児童数（各年度4月1日現在）

平成23年度：39人 平成25年度：40人

平成24年度：25人 平成26年度：0人

## ▽住民（職員）の反応・評価

利用者アンケートからは、まちの中心部に今までに無かった機能があって利用しやすいという声や子どもを安心して遊ばせることができるので今後も継続的に利用したいという声が出ている。

## ☆取り組み効果を踏まえたフォローアップ

消費増税による消費停滞も懸念されているなど依然として地方における経済情勢は厳しく、中心商店街の空き店舗率や来街者数も一進一退の状況にあることから、単に休憩所とするだけでなくここから来街者を分散させる集客施設にするべく本事業のさらなる魅力アップにつながる方策について関係者と協力して検討していきたい。

## ☆将来的な構想のほか、他団体へのアドバイス

事業の目的などを商店街関係者と共有することにより、実施場所の選定や協力体制を築くことができたことから、地域住民や事業関係者と早期に情報共有することがスムーズな事業実施につながると考える。

また、さまざまな課題が山積する現状においては、複合的な機能を合わせることで相乗効果が得られることも期待できることから、事業実施にあたっては、単一の目的に捉われないで絶えず複合的な効果を求める視点が必要と考える。